

## 山陰海岸ジオパークにおける古代製鉄と潟湖の歴史について Review of the history of lagoons and iron production in San'in Kaigan Geopark

芝崎 美世子<sup>1\*</sup>, 松原 典孝<sup>2</sup>, 井上 淳<sup>1</sup>, 岸本直文<sup>1</sup>, 三田村 宗樹<sup>1</sup>

Miyoko Shibazaki<sup>1\*</sup>, Noritaka Matsubara<sup>2</sup>, INOUE, Jun<sup>1</sup>, Naofumi Kishimoto<sup>1</sup>, Muneki Mitamura<sup>1</sup>

<sup>1</sup> 大阪市立大学, <sup>2</sup> 兵庫県立大学自然・環境科学研究所

<sup>1</sup>Osaka City University, <sup>2</sup>Institute of Natural and Environmental Sciences, University of Hyogo

ジオパークでは、地質や地形だけでなく、自然や生物、歴史や人々の生活との関わりにも一般の人々の関心が集まる。このため、古墳や古代潟などの「遺跡」、滝や巨樹、巨石、湧水地などの「聖地」、金や鉄などの「鉱物伝承」、洪水や津波、地震などの「災害伝承」等、地質や自然に関係した地理学、宗教学、民俗学、考古学、歴史学を踏まえた総合的な視点からジオパークを紹介することが求められる。そこで、山陰海岸ジオパークでみられる潟港や古代製鉄を通して、考古学・歴史学的な視点から山陰海岸ジオパークを鳥瞰した。

日本海に面した山陰海岸ジオパークには、湖山池、久美浜湾、浅茂川潟、竹野潟などの潟港が多く存在し、古代から国内外の交易に利用されていたと考えられている。とくに、丹後地方の浅茂川潟には「網野銚子山古墳」、竹野潟には「神明山古墳」など、日本海側最大の大型の前方後円墳が築造されており、考古学上でもこの地域が重要な役割を果たしていたものと思われる。これらの潟港は、自然地形を利用したもので、潟港の成立と消滅を通して、地域の歴史とともにその地形発達や地質学的背景を紹介できる。

またこれらの古墳は、副葬鉄器などから鉄生産や玉などの鉱物資源との関係が指摘されており、竹野川流域にある「遠所遺跡」は、当時の国内最大級の鉄生産の拠点として知られている。日本における古代製鉄の開始には、まだ不明な点も多いが、このような古代の丹後地方は、とくに国内自給の開始時期における鉄生産において、きわめて大きな役割を果たしていた可能性がある。鉄生産の拠点であった遠所遺跡の流域には、古い地質形成年代をもつ宮津花崗岩が広く存在しており、山陰側には珍しい高チタン砂鉄の産地となっている。鉄製品や製鉄の歴史の紹介は、その背後にある地質への関心に繋がる。なお、古代研究の分野では山陽側などの高チタン砂鉄による製鉄に注目が集まっており、宮津花崗岩地域は、その地質や産出砂鉄から見て、日本海をはさんだ朝鮮半島の砂鉄文化との関係性を考えるうえでもとくに重要である。

また現在、ほぼ水田化されている竹野潟は、1603年(慶長8年)の丹後国絵図を見ると、この時期にはすでに埋没されていたと考えられる。埋没年代は不明であるが、神明山古墳を配する竹野潟は、8世紀頃までは古代丹後の潟港として使われていたと推測されているため、この時代から16世紀頃までのいずれの時期に埋没したと考えられる。志布比神社の草創伝承によれば、神社草創期に一気に埋没したという伝承が残されており、この神社の位置や周辺の地質的な特徴から見ると、土石流の災害伝承とも考えられ、地質災害教育につながる。

以上のように、歴史学・考古学的な視点は、新たなジオパークの地質学的魅力を引き出す可能性がある。山陰海岸ジオパークの丹後地方は、歴史的、考古学的にも、また日本海文化を考えるうえでも重要な地域であり、このような視点からのジオパークの理解と認識を進めていくべきであると考えられる。

キーワード: ジオパーク, 丹後地方, 砂鉄, 潟湖, 遺跡, 古代製鉄

Keywords: Geopark, Tango Area, Iron sand, Lagoon, ruins, ancient iron